

中国チベット自治区でカシン-ベック病が流行

2010年 10月 22日 ProMED 情報(Top News Singapore)



チベット自治区東部のチャムド(冒都) Qamd 地区を中心に、まれでかつ治療法のない風土病であるカシン-ベック病(Kaschin-Beck disease)が発生し、17 万人以上の住民が感染の危機にさらされ、混乱状態となっています。これまでに同地区にある 11 の県で約 1 万 4 千名以上がカシン-ベック病の診断を受けています。この病気にかかると、関節部位の肥厚と変形を生じ、運動障害をおこします。病気の原因はまだ明らかにされていませんが、高地であるこの地域の主食である大麦に発生した真菌(カビ)が原因ではないかと考えられています。

[ProMed 調整者]

米国では、トウモロコシに寄生する真菌 Fusariumが、ウマの死亡原因となることがあります。また、セレンがこの病気の原因物質として候補にあがっています。今のところ過剰摂取なのか不足によるのかは証明されていません。この疾患は、2 人のロシア人医師、カシン N.Kaschin とベック E.V.Beck から命名され、別名'big bone disease,' と呼ばれ、小人症をきたします。アジアの一部、チベットや朝鮮半島、シベリアだけにしかみられせん。1992 年、国境なき医師団 Medecins sans Frontieres による調査が行われました。おそらくミネラル不足と貯蔵穀物中のカビ毒が合わさったような、複数の要因が関与したと考えられています。